



開放感溢れる 新たな学び舎（浅羽中学校）完成

3月27日、前夜の嵐が嘘のような素晴らしい天候の下、浅羽中学校校舎改修工事完成の「内覧会」が行われました。大勢の見学者でにぎわいました。

広々とし、明るく、自然いっぱい

南校舎に足を踏み入ると、正面にロビーのような図書館。校舎の片隅にあり、調べものをする特殊な場所のイメージはありません。



床や廊下、階段、壁面、戸棚など、木材がふんだんに使われ、優しさ、柔らかさ、暖かさが伝わってきます。



何ととっても明るいのです。「光」です。4つある「光庭」といわれる吹き抜けは、自然の光をふんだんに取り入れています。



教室は、35の机が並ぶといっぴいです。しかし、廊下との仕切りは全面が戸で大きく開くのです（教室

への前後の入り口はないのです）。そして、廊下でなく「ワークスペース」となって、広々としています。



北校舎は2階建てで、そこには、「音楽室」「理科室」「美術室」「家庭科室」「技術室」などの特別教室が配置されています。



また、南校舎と北校舎の間には、様々な活動のスペースとして「学びの森」「創作の森」が設けられています。



こんな疑問・疑念も

見学範囲外の職員室なども明るく開放感があるのだろうか？ 外からの「職員入口」は、物々しい扉であった。教室の外側の窓は、生徒の安全のためごくわずかししか開かない。換気は・掃除は？ 格技場の天井はもっと工夫を？ などなど。

最も大きな疑問は、何もない広い陸屋根だ。「公共施設の屋根に太陽光発電設備の設置は、大規模改修時などに」の方針はどうなったのか？

(ルポ 浅田二郎)